はじめに

終末って良いよね！

廃墟とか歩きたいね！

という思いから、ダブルクロス The 3rd Edition 用ステージ　デッドワールド

http://tramedy.web.fc2.com/trpg/dxdeadworld.html

を作りました。

そして、手軽に終末感を味わってもらうべく、シナリオクラフトプレイで使うためのストーリーパターンテンプレート　命を賭して

http://tramedy.web.fc2.com/trpg/dxsurvive.html

を作りました。

これでシナリオを準備せずとも、手軽に終わった世界を歩ける――はずなのですが、テストも何もしていないので、まともに機能するかどうかわかりません。

そんな動作保証できないものを置いておいても仕方がありませんし、重大事故を起こす危険性のある乗り物に人は乗せられません。

そこで、動作確認のため、架空のプレイヤーを相手に動かしてみたのが、このリプレイです。

レネゲイドの力を乱用した結果、滅んでしまった世界――デッドワールドを歩く２人のオーヴァードの物語をお楽しみいただければ幸いです。

稲生葵

■権利表記

ダブルクロス The 3rd Edition（http://www.fear.co.jp/dbx3rd/index.htm） は有限会社ファーイースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。

ダブルクロス The 3rd Edition　デッドワールド　命を賭して

とあるＩＲＣ空間。

【ＧＭ】集まってくれたようだな。

【Ｐ１】ダブルクロスと聞いてやってきました。

【Ｐ２】終末世界と聞いてやってきました。

【Ｐ１】これから何が始まるんです？

【Ｐ２】第３次レネゲイド大戦だ。

【ＧＭ】残念。レネゲイド大戦は第１次で終わった。世界ごとな。

【２人】マジで？

【ＧＭ】ＵＧＮとＦＨがケンカしてる間に、一般人が戦争始めちゃったんだよ。

人類滅べ！　って組織が糸を引いていたのかもしれないが、それは置いておく。

この戦争でＵＧＮの願いは叶った。オーヴァードは人類との共存を認められた。憎き敵を殺戮してくれる半不死身の英雄として受け入れられたんだ。

しかし、その所為でレネゲイドの軍事転用が一気に進んで、とある火曜日にそれが全部火を噴いた。

結果、世界はこんがりと焼け、グズグズに腐り、比喩じゃなしに欠けた。今はカラカラに乾いたコンクリ砂漠の上を風が吹き抜けるばかりだ。

【Ｐ１】だが、人類は死滅していなかった？

【ＧＭ】その通り、人類はしぶとかった。破壊兵器の残り火にやられたり、ジャームに殺されたりで現在進行形で減ってはいるが、それなりに生き残ってる。

人類よりしぶといオーヴァードは、もっと多く生き残ったんだが、ロイスが死滅して大半がジャームになってしまった。

【Ｐ２】ふむ。それで私達は、どういう立場なんです？

【ＧＭ】生き残った人間やオーヴァードと、４～５人程度のグループを作って、安住の地を探し歩いている。

【Ｐ１】《ハウスクリエイト》でここに家を建てよう。

※そんなエフェクトは存在しない。

【Ｐ２】確かにモルフェウスがいると、大分良い生活ができそうですね。

【ＧＭ】できる。できるが、そんな良い生活してる連中を、ジャームさんが放っておいてくれると思うのかい？

【Ｐ２】物資が無ければ飢える。物資があれば狙われる。そういう事ですか。

【ＧＭ】そうだね。それじゃ、終末世界を生きるオーヴァードを作っていこうか。
【Ｐ１】普通に作って良いの？
【ＧＭ】データ部分はな。Ｄロイスを１つ入れて作ってくれ。ＦＨワークスとＦＨＤロイスを入れても構わない。
【Ｐ１】マジで？
【ＧＭ】マジで。特殊な処理をするから、ライフパスの決定だけ少し待ってくれ。
それと、情報技能と、情報系アイテムは取っても使えない。コネは取得不可だ。
他人が関わるタイプのアイテムは全滅してると思ってくれ。ただし、使用人だけは例外として取得できる。
【Ｐ２】ふむ、それじゃあ、データ部分だけ作りますか。

２人で相談しつつ、しばらくした後。

【２人】できたー！
【ＧＭ】ではライフパスとロイスを決めよう。まず、Ｄロイスは何を取ったかな？
【Ｐ１】ＦＨＤロイスを入れようかと思ったんだが、今回は羅刹にした。
※常識外れの怪力の持ち主である事を表すＤロイス。
【Ｐ２】精鋭です。
※特に優秀なＵＧＮチルドレンである事を表すＤロイス。
【ＧＭ】なるほど。それではライフパスを決めよう。出自と経験だけ決めてくれ。ただし、ロイスは取得できない。
【Ｐ１】マジで？　なんで？
【ＧＭ】ライフパスのロイスはもうタイタスになって久しいと思ってくれ。ただの思い出の１ページだ。
【Ｐ２】そういう事になるんですか。
【Ｐ１】生き残ったオーヴァードがジャームになっちまうわけだ。出自は『親戚と疎遠』、経験は裏社会の『犯罪』だ。
【Ｐ２】出自は『複数の兄弟姉妹』、経験はＵＧＮで『仲間の死』にしました。
【ＧＭ】それに纏わるエピソードは後ほど聞くとして、『思い出の一品』を取得して、それにロイスを取ってくれ。常備化ポイントを消費する必要はない。
【Ｐ１】ふむ、思い出の力でギリギリ人間側に踏みとどまったってところか？

【ＧＭ】そんなところだ。ライフパスに絡む品でも良いし、まったく絡まない物でも良い。思い出を１つ設定してくれ。

【Ｐ１】俺は戦友のドッグタグにしよう。感情は、懐旧／悔悟で悔悟が表だ。見ていると死んだ戦友を思い出す。

【Ｐ２】私は……私の担当官の形見にします。古びたジッポライター。
　感情は、ポジティブが懐旧、ネガティブは任意で哀愁にします。懐かしい反面、もう会えない事が悲しい。

【ＧＭ】それで実は作業は完了なんだ。

【２人】えっ？

【Ｐ１】待て待て、このままだと、ＰＣとボスに取っても３枠空欄なんだが!?

【Ｐ２】そうですよ！　ジャーム街道ぶらり旅ですよ！

【ＧＭ】安心したまえ。ヒロインと協力者も出てくる。

【Ｐ１】それでも枠が１つ余るわけだが。

【Ｐ２】……まぁ、賑やかでも終末感出ないし、良いと言えば、良い、のかな？

【ＧＭ】そういうわけでキャラクターの自己紹介をどうぞ。

【Ｐ１】じゃあ、俺から。

●ＰＣ１：成瀬陽一（なるせ・よういち）

【陽一】名前は成瀬陽一。キュマイラのピュアブリードで、怪力持ち。いろんな物を振り回したり投げ飛ばしたりして戦うオッサン。戦争初期は英雄と呼ばれていたんだが、民間人の虐殺とか要人暗殺とか、およそ英雄らしからぬ仕事ばかりさせられていた。

【ＧＭ】それが経験の『犯罪』かな？

【陽一】その通り。その過程で戦友を失って、今もたまに夢に見てはうなされる。そのせいで英雄としての仕事もなくなった。

【ＧＭ】戦争に拒否反応が出たとか？

【陽一】そんなとこ。レネゲイド大量破壊兵器に居場所を奪われたってのもある。

【ＧＭ】いつの時代も兵士は不遇だな。

【陽一】世界が焼けた日に爆弾の直撃を食らってるんだが、幸か不幸か生き残ってしまった。何か光ったと思ったら、俺だけ残して辺り一面焼け野原。

【ＧＭ】ふむ。

【陽一】そんな感じの３６歳のダメなオッサンなんだが、ある事件をきっかけに立ち直った。どうして立ち直ったかはＰＣ２が語ってくれる。

【ＧＭ】ではＰＣ２に出てきてもらおう。

●ＰＣ２：七三（ななみ）

【七三】名前は七三と書いて『ななみ』陽一さんに名付けてもらいました。ＰＤＷこと、ＦＮＰ９０で戦うＵＧＮチルドレンです。もう少ししたら戦争に行くはずだったんですが、その前に世界が滅んじゃいました。

【ＧＭ】幸せなんだか不幸なんだか。

【七三】ちなみに、担当官はその時死んでしまって、私はホームの職員に置き去りにされてしまいました。それで、誰にも世話をしてもらえなくて死にかけていたのを、陽一さんに救われたのです。

【ＧＭ】それが陽一が立ち直るきっかけか。

【陽一】実際は助けに来たんじゃなくて、食料を探して忍び込んだんだけどな。成り行きで連れ出して、娘として連れ歩いてる

【七三】そういうわけで、カヴァーも「陽一の娘」になっています。世界は最初からこんなんだったんだと勘違いしてる系の子供です。

【ＧＭ】了解。

【ＧＭ】そういや、２人のビジュアルを聞いていないような気がするんだが。

【陽一】あぁ、語ってないな。陽一は、ところどころ焼け焦げたコートを着てる、浅黒い筋骨隆々の巨漢だ。スキンヘッドに無精ヒゲの強面オヤジなんだが、しょぼくれた顔をしてるんで、イマイチ迫力がない。

【七三】陽一さんとは対照的に細くて小さい子です。サイズの合ってない男物のシャツとズボンを頑張って着てます。元は髪が長かったんですが、戦ってるうちに千切れちゃって、長さがバラバラになってます。

【陽一】七三の身なりを整えてやりたいが、娘を持つどころか親族とも疎遠だった陽一には、何をどうすべきか分からないのだった。まさしくダメなおっさん。

【ＧＭ】自分で言うか。

【陽一】ネーミングセンスからして無いし。７３番って呼ばれてたからって七三とか普通つけないだろ。

【ＧＭ】そういう由来だったのか。それじゃ、ここらでプレサージやら何やら決めて、
　　グランドオープニングに入ろうか。
【２人】おー。

■成瀬陽一

年齢：３６性別：男

ピュアブリード｜キュマイラ

ワークス／カヴァー：何でも屋／元オーヴァード兵

●エフェクト

《獣の力》：人外の怪力を発揮するエフェクト。

《フルパワーアタック》：力を溜めて必殺の一撃を放つエフェクト。

《飛礫》：物を人外の力で飛ばすエフェクト。

《増腕》：攻撃の手数を増やすエフェクト。

■七三

年齢：１２性別：女

クロスブリード｜エンジェルハィロゥ／ノイマン

ワークス／カヴァー：ＵＧＮチルドレン／陽一の娘

●エフェクト

《小さな塵》：知覚を強化して精密射撃を行うエフェクト。

《ピンポイントレーザー》：防具の穴を撃ち抜くエフェクト。

《コンバットシステム》：精密機械のように的確な戦闘行動を取るエフェクト。

《零距離射撃》：銃器を接近戦で用いるエフェクト。

●プレサージ作成

【ＧＭ】まず君達と邂逅するヒロインは、心配性な、おっとり刑事。陽一に興味を持っている。仇がいるらしいな。

【陽一】こんな世界で仇討ちが目標とはな。

【七三】世界がこうなってから仇ができたのかも。

【ＧＭ】想像を巡らせたまえ。君達に対して悪意を持つライバルは、ほほう！　高校生に擬態したスタイリッシュレネゲイドビーイング！

【２人】なんだそりゃ。

【ＧＭ】若く猛々しい究極生物の創造を目論む男！　七三に嫉妬しているようだ。

【陽一】奴よりスタイリッシュ――じゃねぇよな。俺も、七三も。

【七三】ぶっちゃけ泥臭いですよね。

【ＧＭ】そして最後は、君達と一緒に終末世界を歩く協力者だ。こいつは、心配性な医者で、黒ずくめのサングラス。何か情報を探していて、君達を信じていない。

【陽一】信用されるキャラじゃねぇしなぁ。

【七三】でもちょっと悲しいです。

【ＧＭ】名前は……ヒロインが、宮崎愛子（みやざき・あいこ）で、ライバルが、ロジャー・レインで、協力者は、片平勇（かたひら・いさむ）。

【陽一】ライバルは横文字か。

【ＧＭ】纏めるとこうなる。

●ヒロイン：宮崎愛子

年齢：２７　性別：女

　心配性な元刑事。しかし、おっとりしているので、一見心配性とはわからないかもしれない。陽一に興味を持っている。

　仇がいるらしい。

●ライバル：ロジャー・レイン

年齢：？　性別：男

　高校生に擬態しているレネゲイドビーイング。常にスタイリッシュな彼は究極生物の創造を目論んでいる。七三に嫉妬しているらしい。

●協力者：片平勇

年齢：３４　性別：男

　心配性な人間不信の医者。黒ずくめにサングラスという格好をしている。

　何か知りたい事があるらしい。

【ＧＭ】グランドオープニングの状況は次の通り。

●グランドオープニング

　片平勇と砂漠を彷徨う陽一と七三は、ジャームの群れに追われている宮崎愛子と出会う。

　新たな仲間を得た彼らの前に現れるロジャー・レインの手先、戦闘機械の群れ。

　愛子に並々ならぬ執念を見せるロジャーの目的は？

【ＧＭ】ではオープニングを始めよう。

【２人】はーい。

●オープニング

【ＧＭ】オープニングは一括で処理される。２人とも登場してくれ。

【陽一】侵蝕率は３上がった。コートの襟を立てて風の中を歩いていくぞ。

【七三】こっちは４ですが、元が高いので怖いですね。陽一さんの影に隠れて付いていきます。

【ＧＭ】砂を含む風が君達に吹き付ける。辺り一面、砂漠、砂漠、砂漠、ときどき瓦礫。どこか休める場所はないものかと歩き続ける君達は、不意に無数の足音が聞こえるのに気付いた。

【陽一】足音？

【ＧＭ】すぐ目の前の丘の向こうから聞こえてくる。銃声も聞こえるな。

【七三】陽一さん、行ってみようよ。

【陽一】面倒に巻き込まれるんじゃねぇか？　としょぼくれっ面で言う。

【七三】無垢な子供の視線攻撃。

【陽一】わかったよ。ほら、行くぞ。七三を担いで丘を登る。

【ＧＭ】そこで君達が眼下に見たのは、走りながら銃を後方に向けて乱射する女と、彼女を追う異形の群れだった。

【陽一】なんだぁ、ありゃぁ。

【ＧＭ】拳銃弾の１発や２発では、異形は止まらない。そのうち、弾が切れてしまったようだ。

【七三】ここから銃は届きますか？

【ＧＭ】問題なく届くだろう。ついでに言うと、風化したコンクリートの塊がすぐ近くに埋まってるよ。

【陽一】じゃあそいつを引っこ抜いて、バケモノと彼女の間に投げる。

【七三】群れの方に銃撃します。

【ＧＭ】何匹かが撃ち抜かれて死んだ。残りは君達を恨めしげに見た後、逃げて行ったよ。彼女は呆然とそれを見送っている。

【七三】ザシャーッと砂山を滑り降りて声をかけます。大丈夫ですかー!?

【陽一】あ、おい、勝手に行くなよ！　と言いつつ陽一もザシャー。

【ＧＭ】彼女は君達にどう反応したものか迷った後、空っぽの銃をしまって言う。

【女性】ありがとうございます。助かりました。あなた達は、オーヴァード？

【七三】お姉さんは違うの？

【女性】私はただの人間よ。まだ、ね。
【陽一】連中はなんだ？　あんた、どうして追われていたんだ？
【ＧＭ】彼女はわからない、と首を振る。ここでは肉食ジャームに追われるなんて日常茶飯事だ。君達も肉食ジャームと戦った事の１回や２回はあるだろう。
【陽一】嫌な世界だな、まったく。とりあえず、自己紹介しよう。俺は成瀬陽一、こっちは――娘の七三だ。あんたは？
【愛子】私は宮崎愛子。話ができる人に会えて良かったわ。車も砂にやられて止まってしまうし、どうしようかと思っていたの。
【陽一】悪いが、俺達もどうしようかと思っていたところだ。この辺りに人間がいそうな所はない。水や、食料もな。
【七三】私達、これからもうちょっと遠くを探すところだったの。
【愛子】そうなの？　それなら、手伝わせてもらえないかしら？　元は刑事だったから、この辺りには詳しいの。いくつか心当たりがあるのよ。
【陽一】本当か？
【愛子】ええ、地下倉庫の入り口が、この辺りにあるはずよ。それを見つけられれば、水と食料はしばらく心配要らないはず。人間がいるかはわからないけれど……。
【陽一】十分だ。闇雲に探すのにも疲れてきたしな。
【七三】そういえば、ＧＭ。協力者の片平さんはどこにいるの？
【ＧＭ】あぁ、彼は君達の後ろでずっこけて、悲鳴を上げながらゴロゴロと丘を転げ落ちてくるよ。
【陽一】おい、大丈夫か片平。
【七三】大丈夫？
【ＧＭ】彼は口の中の砂を吐き出して、サングラスを直す。
【片平】酷いじゃないか私を置いて行くなんて！　迷子になったかと思ったぞ！
【陽一】悪い悪い。ちょっと急な用事ができたんだよ。
【七三】お姉さんと一緒に地下倉庫を探しに行くんだよ！
【片平】何？　地下倉庫？　いつの間にそんな事を決めたんだ。そんなものがあるって保証は？
【陽一】ねぇよそんなもん。今までみたいに闇雲に探すよりマシだろ。
【片平】それは、確かに、そうだが……。
【ＧＭ】もごもごと片平は黙ってしまう。

【陽一】よし、行くぞ。案内を頼む。
【愛子】任せておいて。

【ＧＭ】というところでシーンを切ろう。まずは愛子にロイスを取得してくれ。
【陽一】有為と猜疑心で取ろう。会ったばかりだし、完全には信じきれない。
【七三】連帯感と不安です。七三は大人の女性に会った事が少ないと思うので。
【ＧＭ】良いんじゃないかな。次はＰＣ間ロイスを取得してくれ。
【陽一】娘だし庇護と、悔悟で。庇護が表だが、見てると虐殺した民間人の事を思い出す。
【ＧＭ】陽一は後悔だらけだな。
【陽一】俺のせいじゃない。いや、俺のせいだけど、戦争が悪いんだ。
【ＧＭ】兵士の悲哀だな。七三はどうした？
【七三】私にとって陽一さんはお父さんですから、幸福感と恐怖にします。ずっと一緒だよね？　みたいな。
【ＧＭ】良かったな陽一、娘からは慕われているぞ。
【陽一】俺は今気付いた。俺の体の腕は太くても、心の腕は細いんだと。
【ＧＭ】は？
【七三】う？
【陽一】愛が重い。
【ＧＭ】……次のシーンに行こうか。

●固定イベント：ロジャーの影

【ＧＭ】そう言えば、デザイアチャートを振っていないな。……ふむ、飢餓と出たか。

【陽一】えげつないの来たな。

【七三】どんなのでしたっけ？

【ＧＭ】サプライズチャートとエネミーチャートを振るとＨＰ吸われる奴と、ミドルフェイズのシーン数の分だけダメージを増やす奴だ。

【七三】うえぇー、らしいけど辛いー。

【ＧＭ】それでは固定イベントを始めよう。時間はさっきのシーンからさほど経過していない。コンクリートの瓦礫が増えてきて、町の跡地に来たかな？　って頃だ。２人とも登場してくれ。

【陽一】侵蝕率は、今度は４か。

【七三】こっちは６です。うぅ、悪い出目じゃないですが、陽一さんとの差がどんどん開いてます。

【陽一】これから縮む事を祈ろう。

【七三】そうですね。

【陽一】俺は瓦礫の山を見ながら、どれかひっぺがせば地下倉庫が見つかるかなーとか思ってる。

【七三】宝探し気分ではしゃいでます。お姉さん、地下倉庫ってどこにあるの？

【ＧＭ】愛子は付箋だらけの手帳と地図を出して開く。

【愛子】この近くなのは間違いないわ。だけど、大分砂が積もってしまっているわね……。

【ＧＭ】彼女が言うとおり、塗装が剥げてヒビ割れた廃ビルが砂に埋もれている。１階に見える部分は、もしかしたら２階や３階かもしれない。

【陽一】瓦礫をどけるなら得意だが、砂が相手となるとシャベルが欲しいな。

【片平】倉庫の中まで砂に埋もれていたらどうする？　私はもう疲れたぞ。

【ＧＭ】片平が杖をつきながら言う。

【陽一】埋もれていたなら、かき出すまでだ。ほらしっかりしろ、七三はまだ元気だぞ。

【片平】き、君達と、ただの人間の体力を、同じ次元で考えないでくれないか。

【ＧＭ】片平は切れ切れに言う。実際、砂漠を歩くのはただの人間には辛い。

【陽一】やれやれ、その辺にテントでも張って休憩するか？

【七三】まだ歩けるよー！　っと前方から。
【ＧＭ】七三が返事をしたその時、突然銃声がして君達の足元が爆ぜた。
【七三】一瞬で非常事態モードに移行！　銃を構えます！
【ＧＭ】ガチャガチャと金属的な足音を立てて、ケンタウロスのような形をした黒塗りのロボットが十数体現れた。こいつらは戦中量産された、ブラックドッグの発電細胞から動力を得て稼動する殺戮機械だ！
【陽一】チッ、世界は滅んだのに、お前らは健在かよ。
【ＧＭ】ロボ達は陽一の言葉を無視して、チカチカとカメラアイを赤く光らせながら、威圧的に言う。
【ロボ】その女をこちらに引き渡せ、さもなくば、死だ。
【陽一】どうして彼女が欲しいんだ？
【ロボ】ロジャー様が必要としているからだ。何故必要としているかは我々も知らない。早く決断しろ。
【ＧＭ】ジャキッとロボ達はライフルを構える。エキストラだから適当にやっつけてくれ。
【陽一】じゃあ、失せろポンコツ。ってその辺のデカい瓦礫を投げつけるぞ。
【七三】それを合図に射撃を開始します。
【ＧＭ】ロボ達は意外と俊敏だ。瓦礫と銃撃で部隊は半壊したが、わさわさと脚を動かして散開し、君達の方へ撃ってくる。
【ロボ】お前達をＡクラスの脅威と認定した。脅威は排除する！　排除する！
【陽一】デカい瓦礫を振り回して弾を弾くぞ。
【七三】その隙間を縫って、機械的正確さで壊していきます。
【ＧＭ】一瞬だった。俺達怖い戦闘機械ですよってツラして出てきたロボット達は、あっという間にスクラップになった。
【ロボ】グ、ガガ、ロジャー様が、黙っていないぞ。
【陽一】ロジャーか。おい、誰だそいつは。
【ロボ】お前達は、ロジャー様に刃向かったのだ。後悔するがいい。
【ＧＭ】ノイズ混じりの声で言うと、ロボは爆発した。
【陽一】チッ。皆、怪我しなかったか？
【七三】大丈夫です！
【愛子】私も、なんともないわ。

【ＧＭ】よく見ると片平がいない。
【陽一】あ？　片平はどこだ？　おい、片平！
【ＧＭ】瓦礫の影からひょこっと出てくる。
【片平】もう終わったのか？
【七三】終わったよ。
【片平】出てきて、大丈夫なんだろうな？
【陽一】ああ、もう全部スクラップにしてやった。だから安心して出て来い。
【ＧＭ】片平は周囲を気にしながら出てくる。
【七三】ほんとに心配性だなぁ。
【陽一】まったくだ。しかも疲れたって言ってたくせに、逃げるのは早いのな。
【七三】そう言えばそうですね。
【陽一】まぁ、それは置いておくとして、あいつら、ロジャーとか言ってたな。心当たりは？　愛子に聞いてみよう。
【ＧＭ】愛子は首を振る。
【愛子】知らない名前よ。狙われるような心当たりもない。
【七三】お姉さんが、美人だからとか？
【陽一】そんな理由でか？　とも言い切れないよな。特に相手がジャームだったりすると。
【ＧＭ】その通り、彼らの行動原理は人間には理解しがたい。
【陽一】ロジャーか……どうやら、こいつをどうにかしないと、俺達は宝探しもままならんらしい。
【七三】殺すの？　と、子供的物騒発言。
【陽一】曖昧に頷く。殺しなんて、しなくて良い世の中なら良かったんだがな。
【七三】陽一さん、私は平気だよ。戦争に行くつもりだったんだもん。
【陽一】ため息をつく。そうだな、お前は平気なんだよな。心の中でＵＧＮに悪態をつく。お前らが作ってくれた兵器は頭に来るくらい優秀だぜバカ野郎。
【ＧＭ】ここでシーンを切ろう。ここからリサーチに移行する。それから、シナリオロイスとして、ロジャー・レインのロイスをあげよう。
【陽一】こっちがシナリオロイスなのか。それじゃあ、好奇心と憤懣で取る。動機のよく見えないロジャーに好奇心を持った。だが、表は憤懣だ。お前のせいでまた七三を戦わせなきゃならん。

【七三】執着と、敵愾心で取ります。敵と認識した対象に、強い敵愾心を覚えるようにプログラムされているんです。

【ＧＭ】本当に優秀だな。ＵＧＮは立派な軍事組織と化していたらしい。では、次のシーンに行こう。

【ＧＭ】まずは、イベントチャートを陽一にＲＯＣしてもらおうか。

【陽一】４の、１だ。

【ＧＭ】４の１はヒロインの様子だな。愛子は居心地悪そうにしているらしい。

【陽一】まぁ、あんな事になったら、確かに居心地が悪いわな。

【ＧＭ】割とキレイな流れだと思うが、振り直すかい？

【陽一】キレイな流れだからこのまま行こう。七三はどうする？

【七三】ここは大人同士で会話するのがカッコイイと思います。もし、会話の流れとかで必要になったら呼んでください。

【陽一】わかった。まずは俺だけ出るよ。良いかな？

【ＧＭ】良いよ。侵蝕率の差も埋められると良いな。

●リサーチフェイズ１：宮崎愛子の様子

【陽一】侵蝕率は７上昇。七三にぴったり並んだな。

【ＧＭ】素晴らしい。

【陽一】愛子はどうしてる？

【ＧＭ】愛子は、手帳や地図を広げながら、まだ原型を留めている建物を調べ歩いているよ。君達から少し、距離を取っているね。

【陽一】じゃあ、愛子が調べてる建物の壁に寄りかかって言おう。できれば、近くにいてくれると助かるんだが。

【ＧＭ】愛子は少し驚いた様子で振り返る。

【愛子】あ、ごめんなさい。でも、私がいると、また迷惑をかけてしまいそうだから……。

【陽一】良いさ。こんな世界だ。迷惑なんて、向こうからいくらでも来る。

【愛子】でも――

【陽一】遮る。あんた、オーヴァードじゃないんだろう？　怪我でもされた方が厄介だ。医者はいるが、道具も薬もないんでな。

【愛子】……そうね。甘えてしまって、良いのかしら？

【陽一】なに、世話になってるのは、こっちも同じさ。あんたがいると、七三が楽しそうなんだ。一緒に宝探しをしてやってくれないか。

【七三】そこで、はしゃぐ七三の声と、限界近い片平氏の苦悶の声が聞こえてきます。

【愛子】わかったわ。物探しは、きっと彼女の方が得意でしょうしね。

【ＧＭ】良い親父だなー。

【陽一】自分じゃ上手くできないから丸投げしたとも言う。

【ＧＭ】自分で台無しにするなよ！

【陽一】ダメなオッサンだっつっただろ！

【ＧＭ】……気を取り直して、愛子は手帳と地図を閉じ、陽一に背を向けて言った。

【愛子】七三ちゃん、ただのオーヴァードの女の子じゃないわね。

【陽一】よくわかるな。

【愛子】刑事のカンよ。軍にもいろいろ黒い噂はあったけど、彼女の年と練度からして、ＵＧＮチルドレン。

【陽一】答えないで強引に話を逸らす。俺は、世界が滅んで良かったと思ってる。おかげで、七三は戦争に行かずに済んだ。

【ＧＭ】愛子も食い下がろうとはしない。
【愛子】でも、滅んだこの世界は毎日が戦争だわ――なんて、意地悪かしらね。
【陽一】それもそうだ。欺瞞だよな。戦争を無かった事にできりゃなぁ。
【ＧＭ】実際、いろんな意味で陽一は戦争を無かった事にしたいよな。
【陽一】ああ、俺が戦争の中で捨てたものと失ったものは多すぎる。俺は背を向けて出て行く。少し、ロジャーとかいう奴の事を探ってくる。
【愛子】気をつけて。
【ＧＭ】では、ここらで情報収集に移行しようか。
【陽一】確か、情報技能は使えないんだよな。
【ＧＭ】その通り、情報は社会があるから流れるものだ。人間社会が崩壊したこの世界に、情報技能が使える場所はない。
【七三】例のロボットの残骸から＜知識：機械工学＞で引っ張り出すとかですか？
【ＧＭ】それも一手だ。他にも、ロボットが来た方角へ偵察に行くとか、廃墟を見回るとかすれば、敵が残したなんらかの痕跡が見つかるかもしれない。こうして手を出してくるという事は、ここは奴の縄張りなのだから。
【陽一】なるほど、それで、つまり、どの技能が使えるんだ？
【ＧＭ】＜運転：＞、＜知覚＞、そして適切な＜知識：＞の３つだ。
【陽一】＜知覚＞は技能があるが、ダイス２個じゃ不安だな。歩いて偵察に行くって事で【肉体】の素振りで良いか？
【ＧＭ】良いよ。難易度は９。振ってみてくれ。
【陽一】７つ振って、よし、１つクリティカル！　達成値１１だ。
【ＧＭ】おめでとう、プライズチャートをＲＯＣしてくれ。
【陽一】振って、３番だな。
【ＧＭ】ロジャー・レインは賢者の石を欲しているらしい。恐らく、廃墟の壁にスタイリッシュな賢者の石の落書きか何かがあったんだろう。まだ新しい。
【陽一】この落書き……賢者の石か？　誰がこんなもんを――と思いつつ戻ろう。

【ＧＭ】というところでシーン終了だ。次は七三がＲＯＣしてくれ。
【七三】はーい。振ってみますね。８の１です。
【ＧＭ】ほう！　８の１！　８の１は協力者の知恵袋、なんだが、１番はなんとサプライズチャート行きだ！

【２人】げぇーッ！

※サプライズチャート：なんらかの重大なトラブルが発生する表。

【ＧＭ】このままだと、片平の悲鳴が聞こえてサプライズ直行だが、振り直す？

【七三】うぅ、さっきまで片平さんと一緒でしたし、それっぽくはありますが。

【陽一】まだ余裕があるし、１回ぐらいハプニングがあっても良いんじゃないか？

【七三】じゃあそのままで。サプライズチャートも振りますね。８番です。

【ＧＭ】８番は、膨らむ疑念。実は裏切り者がいるんじゃないだろうか……？

【陽一】振ったってのに、あいつらしいな、おい。

【七三】ほんとですね。

【ＧＭ】どんなシーンにしようか？

【七三】片平さんがトラップか何かに引っかかって、危ない目にあうとかどうでしょうか。それで、愛子さんの罠だとか言い出すんです。

【ＧＭ】ふむ、それっぽいな。それで行こう。

【七三】七三じゃ説得は手に余るので、陽一さんも出てもらえますか？

【陽一】了解。状況見て入るよ。

●リサーチフェイズ２：死んだ世界が牙をむく！

【七三】侵蝕率は、８上昇。高めで安定しちゃってますねぇ……。

【陽一】先に振っておくか。こっちは９だ。

【ＧＭ】仲の良い事だ。

【七三】私は片平さんを連れ回して、あっちこっちの廃墟を覗いてます。片平さんはどんな様子ですか？

【ＧＭ】彼はもう疲労困憊って様子だね。

【片平】もう、あの、あれだ。君だけで探してくれないか。私は向こうの建物で少し休む。

【七三】うん、わかった！　ジャームとロボットに気をつけてね！

【片平】怖い事言わないでくれないかな！

【ＧＭ】などと言いつつ、片平は向かいの廃ビルに入っていく。

【七三】適当に目星をつけて砂を掘る作業に戻ります。

【ＧＭ】七三がひんやりと冷たい砂に手を入れたその時だった。片平の絶叫が響き渡り、続いて連続する銃声！

【七三】片平さん!?　銃を構えて向かいのビルに走ります！

【ＧＭ】さっきまで疲労困憊だったにも関わらず、こけつまろびつ片平が転がり出てきた。それに続いて、黒塗りのラジコンヘリみたいな奴が現れる。よく見るとマシンガンをぶら下げているね。

【七三】撃墜します！

【ＧＭ】七三に撃たれたラジコンヘリはパーツを撒き散らし、あさっての方向に弾をばら撒きながら墜落して、動かなくなった。

【片平】はぁーッ！　はぁーッ！

【ＧＭ】と、片平は目を見開き、口をパクパクさせている。

【七三】あの、片平さん、大丈夫ですか？

【ＧＭ】片平は君をキッと睨むと、胸倉を掴み上げた。

【片平】大丈夫!?　大丈夫だと!?　ふざけるなッ！　なんなんだよ。なんなんだよここは！　殺人ロボットに殺人ラジコン！　おまけに地下倉庫は見つからない！

【陽一】出て行って止めよう。おい、子供相手に何をやってる。少し落ち着けよ。

【片平】殺されかけたんだぞ！　これが落ち着いていられるか！　私達はあの女に騙されているんじゃないのか!?　地下倉庫はどこにある!?　どこにも無い！

【ＧＭ】片平は口角泡を飛ばして喚き散らす。
【陽一】顔を掴んで凄もう。じゃあ１人で砂漠に出るか？　俺は構わんぞ。
【片平】ヒッ！
【陽一】しょぼくれっ面に戻って、ぽいっと放す。どこも同じだ。覚悟を決めろ。
【ＧＭ】片平はばつが悪そうに、横を向く。
【陽一】それで、お前も、七三も、怪我はしなかったか？
【七三】うん、私は大丈夫。
【片平】ああ、なんともないよ。……取り乱して、悪かった。痛くなかったかい？
【ＧＭ】と、片平は七三に聞いてくる。
【七三】平気だよ。陽一さん、片平さんがこんなに疲れてるし、お姉さんもきっと疲れてるよ。今日はもう休もうよ。
【陽一】そうだな。片平、もう少し歩けるか？　俺と七三で、まだ使えそうなビルを制圧する。今日はそこで休もう。
【ＧＭ】片平は億劫そうに立ち上がってサングラスを直す。
【片平】ありがたい。そういう事なら、もう少し頑張ってみよう。
【陽一】行くぞ。七三、宮崎さんを連れてきてくれ。
【七三】はーい。

【ＧＭ】サプライズチャートでは情報収集できないから、ここでシーン終了だな。さらに、七三はＥロイスの効果でＨＰを４点吸われる。
【七三】うあー、なんか吸われるー。
【陽一】４点でも七三はＨＰが少ないから馬鹿にならんな。
【七三】＜調達＞には自信がありますから、応急手当キットでも探しましょうか。
【陽一】次のイベントチャートはどうする？　休む系のをチョイスするか？
【七三】そうですねぇ……あ、ヒロインの様子に『いないと思ったら物資を持って戻ってくる』っていうのがありますよ。
【陽一】おお、片平も納得しそうだし、良いかもな。
【ＧＭ】それで行くかい？
【２人】お願いします。
【ＧＭ】では次のシーンに行こうか。

●リサーチフェイズ３：宮崎愛子の収穫

【七三】侵蝕率は、９……うぅ、ガンガン上がっちゃってます。

【ＧＭ】低すぎても困りもんだけどな。このテンプレ、シーン数少なめだし。

【七三】気を取り直して、お姉さんを探しに行きます。声を出すと何か呼び寄せてしまうかもしれないので、いつでも戦えるようにしつつ、静かに砂の上を走っていきます。

【ＧＭ】七三の小さな足音が陽光に熱された砂の中に染み込んで消えていく。薄暗い廃墟の中、積み上がった瓦礫の隙間、愛子の姿は見つからない。

【七三】どこに行っちゃったのかなぁ？

【ＧＭ】せっかくだから＜知覚＞で振ってごらん。

【七三】ダイスボーナスが入ったので７個ですね。＜知覚＞は無いので、８です。

【ＧＭ】あー、残念。七三があちこち探していると、後ろから肩を叩かれる。

【七三】ビックリして振り返ります。

【ＧＭ】すると頬にぶにゅっと何かがめり込んで、愛子の笑い声がした。

【愛子】ビックリした？

【七三】プクッと膨れます。子供だと思ってー！　ぽかぽか叩きますよ！

【愛子】あはははは！　ごめんごめん！　これあげるから機嫌直して、ね？

【ＧＭ】と、愛子が君の頬にめり込んだ物を差し出してくる。透き通ったキレイな黄色の飴だ。

【七三】飴なんて見た事ないのでキョトンとしてます。なんです？　これ？

【ＧＭ】その反応には愛子もキョトンだよ。

【愛子】飴なんだけど、食べた事ない？

【七三】ない。と頷きます。

【愛子】甘いものは、好き？

【七三】あまいもの？　七三の頭にその手の語彙は入っていません。

【ＧＭ】おい、担当官は何をやっていたんだ。

【陽一】まったくだ。責任者を出せ。チルドレンの教育はどうなっている。

【ＧＭ】この分だと敵の殺し方以外教えていなくても不思議じゃないな。

【陽一】思い出になってるんだから、担当官は良い奴だったんじゃないのか？

【七三】いいえ。盲目的に懐くように洗脳されてるだけです。

【ＧＭ】ひでぇ！

【陽一】とんでもねぇな。まぁ、昔のＵＧＮでもやっていそうではあるが。
【ＧＭ】気を取り直して。愛子はビニールを剥がして、カラコロと自分で舐める。
【愛子】こうやって舐めるの、美味しいよ？
【ＧＭ】そう言って、さっき会った時は持っていなかったナップザックを下ろして、そこからもう１つ出してくれた。
【七三】受け取って舐めてみます。補給用ゼリーに似た味がします。
【ＧＭ】愛子は、同情とも憐憫ともつかぬ顔をした後、ザックを背負い直す。
【愛子】陽一さんはどこ？　地下倉庫はまだだけど、非常袋をいくつか見つけたの。運ぶのを手伝ってもらいたいんだけど。
【七三】あ、そうだ。お姉さんを探してたんだよ！　今日はもう休憩するから、探してきてって言われて来たの！
【愛子】あら、そうだったの？　思ったより遠くに来てたみたいね。近くにいろって言われたばかりなのに。
【七三】こっちだよ！　行こう！

【ＧＭ】では、七三と愛子が陽一のもとへ向かったところで、情報収集しようか。難易度は９、使える技能もさっきと同じだ。
【七三】＜知覚＞で振ります。７つ振って、１個クリティカル！　１４です。
【ＧＭ】おめでとう。プライズチャートをＲＯＣしたまえ。
【七三】振って、９番です。
【ＧＭ】ほう！　９番！　宮崎愛子はロジャー・レインの仇敵らしい。
七三は帰り道、大きな瓦礫にスタイリッシュな落書きがあるのを見つけるね。
そこには黒い塗料で女性の顔が描いてあるんだが、その上から赤黒い塗料で大きなバツが描いてあって、顔がよくわからない。
【七三】薄気味悪ーい。あっ！　って言って立ち止まります。
【愛子】どうかした？
【七三】なんでもないです。こっちですよ！　ってまた走り出します。
【ＧＭ】首を傾げつつも愛子が続く。というところでシーンを切ろう。
【七三】あ、ＧＭ、さっきの飴で活力が回復したという事でＨＰもらえませんか？
【ＧＭ】ふむ。応急手当キットの購入判定に成功したら２Ｄ１０回復して良いよ。
【七三】ありがとうございます。判定は、成功です。全回復しました！

【陽一】本当に愛子はオーヴァードじゃないのか？

【七三】彼女が持ってるとは言われてませんが、賢者の石とか出ましたしねぇ。

【陽一】《ワーディング》するか？

※非オーヴァードを無力化するエフェクト。

【ＧＭ】ああ、ごめん、言い忘れてたけど、この世界では《ワーディング》対策が確立されている。非オーヴァードでも《ワーディング》は効かないよ。

【陽一】マジで？

【ＧＭ】怪我をさせればわかるだろうね。治ったらオーヴァード。

【陽一】さすがにそんな乱暴はできないな。

【ＧＭ】疑念など抱きつつ、次のシーンを決めようか。陽一がＲＯＣしてくれ。

【陽一】んー、そろそろライバルにご登場願いたくもあるな。

【七三】今のところ落書きでしか存在を主張してませんしねぇ。

【陽一】とはいえ、ライバルはトラップチャートだしな。よし、静かな世界の風景をチョイスして振るぞ。１０だ。

【ＧＭ】１０は、何の音もしないと思いきやエンジン音が聞こえてくる、だね。

【陽一】これでロジャーにご登場願うか？

【ＧＭ】良いんじゃないかな。七三も出る？

【七三】お姉さんと片平さんから離れると不味いと思うので、休みます。

【ＧＭ】了解。

●リサーチフェイズ４：静かな世界のエンジン音

【陽一】侵蝕率は、８上昇。また七三と同値だ。

【ＧＭ】すごいシンクロだ。本当に親子なんじゃないのか。

【陽一】俺に七三はもったいない。

【ＧＭ】良いコンビだと思うがね。

【陽一】話を進めようぜ。場所は、３階建てぐらいのビルが良いな。そこの３階に持てるだけ非常袋を運び込んだって事で。

【ＧＭ】わかった。陽一のおかげで当面水も食料も心配要らない量が揃った。今は不要物と必要物資の分別を片平がやっている。

【陽一】不要物なんてあるのか？

【ＧＭ】例えば携帯ラジオとか、この世界だと誰も放送しちゃいないぜ。

【陽一】確かにな。でもちょっと希望を抱いてしまうな。片平、１つだけで良い、ラジオを残しておいてくれないか。

【片平】……そうだな。生きている放送局があるかもしれない。

【ＧＭ】と、放り捨てようとしたラジオを袋に戻すよ。

【陽一】この袋、結構充実してるよな。飴を１つ舐めつつ言うぞ。

【片平】ああ、これは助かる。これだけ物資があれば、私もそれなりに医者として振舞えるだろう。

【ＧＭ】彼は自分のザックに風邪薬や胃腸薬、包帯なんかを詰め込んでいるね。

【陽一】本当に医者なんだなーと思いつつ、壁際に座ってみる。

【ＧＭ】３階に吹く風は下よりも埃っぽくない。気持ち良いそよ風だ。その風に、ドッドッドッと重低音が乗ってきた。

【陽一】戦中の記憶がフラッシュバックする。これは、車のエンジン音！　七三、２人を頼むぞ！　って言ってひらりと窓から飛び降りるぞ。

【ＧＭ】ここ３階なんだが。

【陽一】俺はキュマイラだぜ？　不満なら指で壁を削りながら降りるが。

【ＧＭ】まぁ、下も砂だしな。華麗に飛び降りていいよ。

【陽一】ザンッと砂を巻き上げて着地するぞ。音はどっちから聞こえるんだ？

【ＧＭ】左前方だな。廃墟の列を１つ隔てた向こう側から聞こえる。

【陽一】じゃあ、ドゴーン！　と壁をぶち抜いてそっち側に出る。

【ＧＭ】派手だなぁ。壁をぶち抜いて飛び出した陽一が見たのは、車ではなく、大型のバイクだった。ダンプカーのタイヤを２つ連結したようなバケモノバイクだ。

【陽一】なんだよ、こりゃあ。

【ＧＭ】そいつは陽一にお構いなしに突っ込んでくる。

【陽一】うおぉっとぉ！　回避！　回避！

【ＧＭ】辛うじて陽一が避けると、バイクはジャックナイフで華麗にターンして君の方へ向き直った。

【陽一】もう１発か？　身構えるぞ。

【ＧＭ】と、バイクの上にライダーが立ち上がった。汚れ１つない学ランをビシッと着こなした少年だ。

【少年】バイクの前に飛び出すなんて、危ないじゃないか。君は自傷衝動系のジャームさんかい？

【陽一】生憎だが違うな。お前こそ、前をよく見て運転したらどうだ。

【ＧＭ】少年は嘲笑を浮かべた。

【少年】僕の邪魔をする方が悪いんだ。邪魔？　邪魔と言えば、君はボットの報告にあったＡクラス脅威と特徴が一致するね。

【陽一】Ａクラス脅威？　まさか、お前は！

【ＧＭ】少年はにぃっと笑って親指を胸に当てる。

【ロジャー】そう！　僕こそ、この町の支配者！　ロジャー・レインだ！

【陽一】探す手間が省けたぜ。ここでお前をぶちのめす！

【ロジャー】それはこちらの台詞だよ。君を轢き潰せば、障害物を１つ消せるんだからね。

【陽一】そうだ。始める前に言っておこう。１つ聞かせろよ。何故彼女を狙う？

【ロジャー】僕の目的のために必要なのさ。それ以上答えるつもりはない。冥土の土産は配らない主義なんだ。

【ＧＭ】と言って、彼はバイクにまたがり、アクセルを握った。

【陽一】やるか！　投げられそうな瓦礫を探すぞ。

【ＧＭ】先ほどぶち抜いた壁が手頃なサイズだ。しかし、突然アラーム音がこの場に鳴り響く。

【陽一】アラーム？

【ロジャー】む？　すまない。本部から連絡だ。

【ＧＭ】ロジャーは懐から無線機を取り出して、二言三言言葉を交わす。
【ロジャー】急用ができた。僕は帰らなければならない。
【ＧＭ】言い切らないうちにアクセルを全開にし、君に向かって突っ込んでくる！
【陽一】回避しつつ瓦礫を投げるぞ！
【ＧＭ】瓦礫は直撃――するかと思われたが、いかなる力を用いたのか、逸らされて崩れかけの廃墟の２階を破壊した。
【陽一】チッ、仕損じたか！　無駄とは思いつつもタイヤの跡を追うぞ。
【ＧＭ】ではそこで情報収集に移行しようか。

【ＧＭ】相変わらず難易度は９、使える技能も同じだ。
【陽一】【肉体】の素振りで８個振るぞ。達成値は９だ。
【ＧＭ】惜しいな。だが成功だ。プライズチャートをＲＯＣしたまえ。
【陽一】振って、５番だ。
【ＧＭ】宮崎愛子はロジャーのロイスだったらしい。
【陽一】マジで？
【七三】全部本当でも、一応繋がりますね。彼女は究極生物を作ろうとするロジャーに反発して、その材料になる賢者の石を奪って逃げた。
【陽一】確かに、繋がるな。
【七三】ところで私達情報交換しましたっけ？
【陽一】……行間でやったという事にしておこう。
【ＧＭ】ではシーン終了だ。
【陽一】そうだＧＭ、片平にロイスを取るぞ。感情は好意と厭気で、好意表にする。取り乱すのは困るが、オーヴァードじゃねぇし、仕方ねぇか、みたいな。
【ＧＭ】了解。七三は？　ＧＭとしては早めの取得をオススメするが。
【七三】んー、庇護と恐怖で庇護を表にします。非戦闘員保護用プログラムが働くのです。
【ＧＭ】兵士だなぁ。了解。

【ＧＭ】それじゃ、次のシーンを決めようか。七三がＲＯＣしてくれ。
【七三】はーい。０の３です。
【ＧＭ】それだとサプライズ直行だな。振り直しをオススメするよ。

【七三】余裕もなくなってきましたしね。振り直して、今度は敵襲です！

【ＧＭ】ふむ。倒せたらトラップ解除成功として扱おう。やるかい？

【七三】どうします？

【陽一】やろう。

【ＧＭ】どんなシチュエーションにしようか。

【陽一】ロジャーを追って行った俺が、逆にロジャーから追っ手をかけられて、そいつを撃退するとかどうだろう。

【ＧＭ】なるほど。それで良いかな？

【七三】オッケーです！

【ＧＭ】ではそれで行こう。

●リサーチフェイズ５：ロジャーの知略

【陽一】侵蝕率は、５上がったか。

【七三】こっちは６です。

【ＧＭ】バイクを追う陽一、しかし、どうやら少々深追いが過ぎたようだ。蜘蛛のような形をしたロボットの群れがブレードを振りかざして襲い掛かってきた！

【陽一】しまった！　こんな手駒を持ってやがったか！

【七三】ズバババッと牽制射撃します。

【陽一】七三！　どうしてここに!?

【七三】陽一さんが遅いから探しに来たんです！　逃げますか！

【陽一】いや、こいつらどこまでも追ってくるぞ。破壊する！

【七三】了解です！

【ＧＭ】では戦闘を開始しよう。戦場はこうなっている。カッコはエンゲージだ。

（七三）－１０ｍ－（陽一）－５ｍ－（ロボＡＢＣ）（ロボＤＥ）

【ＧＭ】クモロボはトループだ。行動値は全部６。

【陽一】僅差で俺の方が遅いか。

【ＧＭ】七三からどうぞ。

【七三】陽一さんのダメージが増えると困ります。ロボＡＢＣのエンゲージに、ＰＤＷの効果を使って範囲攻撃します。《コンセントレイト》《小さな塵》《ピンポイントレーザー》《コンバットシステム》を使って……あう、達成値１８です。

【ＧＭ】ロボの回避の達成値は１１で固定だ。ダメージロールしてくれ。

【七三】ダメージも低いなぁ、１８の装甲値無視です。

【ＧＭ】なんと３グループ全滅。派手に部品を撒き散らしてクズ鉄になった。

【２人】え？

【ＧＭ】エネミーチャート振ったらチンピラとか出ちゃってさー。実はこいつらチンピラ相当品なのよ。ちょっと強化したけど。

【陽一】ちょっと強化ってのがひっかかるな。

【ＧＭ】生き残ったクモロボＤとＥが陽一にエンゲージ、《さらなる波》と《音速攻撃》を組み合わせて、達成値は両方１８だ。

※さらなる波：エネルギーを増幅して攻撃力を高めるエフェクト。

※音速攻撃：目にも留まらぬ素早い攻撃を繰り出すエフェクト。

【陽一】回避してみるか。惜しい。両方クリティカルしたんだが、１回当たった。

【ＧＭ】クモロボのブレードが唸る！　２０ダメージだ。

【陽一】いてぇ！　避けなかったら倒れてたな。

【ＧＭ】そこで陽一の番だ。

【陽一】エンゲージされると《飛礫》は使えないんだよな。マイナーアクションで武器の装備を解除するぞ。それから《コンセントレイト》《獣の力》《増腕》を組み合わせて、クモロボＤとＥを攻撃する。達成値１５かよ。

【ＧＭ】まぁ、でも当たりだ。

【陽一】ダメージは１５だ。

【ＧＭ】ロボは陽一が振るう拳に軽く触れただけでバラバラになった。

【２人】ふぅ。

【ＧＭ】あっけない。数だけ軍団では範囲攻撃持ち２人の相手にはならんか。

【陽一】持ってなかったらと思うとゾッとする。絶対に刻まれてたぞ。

【七三】陽一さん！　大丈夫ですか！　駆け寄るよ。

【陽一】心配すんな。かすり傷だ。少し痛いけどな。

【七三】手当てしなきゃ！　早く戻ろうよ！　陽一さんが大怪我してるので泣きそうになってます。

【陽一】この程度じゃ死なないから、そんな顔すんなよ。物資も手に入ったし、片平に頼めば手当てしてもらえるかな？

【ＧＭ】そうだね。応急手当キットの購入判定に＋２の修正をあげるよ。

【陽一】それじゃ、廃ビルまで戻るぞ。筋肉で傷を締めて極力血を止める。《鋼の肉体》があれば、実際に治るんだがな。

※鋼の肉体：筋肉の力で強引に傷をふさぐエフェクト。

【七三】戻るまで周囲を警戒します。血の臭いに引かれてジャームが寄ってくるかもしれませんし。

【ＧＭ】そうして、七三に護衛されて戻ってくると、３階から片平が身を乗り出して、目を丸くした。

【片平】それは、どうしたんだ!?

【陽一】悪いな。少しドジッた。手当てしてもらえるか。

【片平】そこで待ってろ！　すぐに行く！
【ＧＭ】バタバタと音がして、膨らんだザックを背負って片平と愛子が降りてきた。
　　２人とも、＋２ボーナスで購入判定をして良いよ。
【２人】成功！
【陽一】早速使って、１２３４って低ッ！　４Ｄ１０で１０ってどういう事だよ。
　　※４Ｄ１０の期待値は２２。
【片平】思ったより深いな。今ある道具では、これが精一杯だ。
【陽一】楽にはなった。ありがとうよ。七三を安心させようとしてすっくと立ち上がるんだが、俺はダメなオッサンなので思わず呻く。
【七三】陽一さん！
【片平】あまり無理をするな。傷に響くぞ。空のザックをバラして担架を作ろう。他のビルに移った方が良さそうだ。
【ＧＭ】と、片平は点々と続いている陽一の血の跡を見ている。
【陽一】かぁー、せっかく落ち着いたってのに、引越しか。
【片平】調子が戻ったらまた探してくれ。
【陽一】おう、任せろ。ひらひら手を振る。
【七三】私、担架の材料を探してきます！　長い棒的な物が足りないはず。
【愛子】あ、私も手伝うわ。
【ＧＭ】と、愛子が七三に続く。片平は引越しの準備をするべく３階に戻った。
【陽一】１人になったところで、思い出の一品のドッグタグを取り出すか。こうしてると、戦争を思い出すな。あの頃は、この程度で痛いなんて言ってられなかったよな。と、タグに話しかける。
【ＧＭ】お前は本当に３６か。
【陽一】仕事がなくなった辺りから老け込んだんだよ。
【ＧＭ】ほんとに戦争に翻弄されてるな。情報収集に移行しようか。

【ＧＭ】相変わらず難易度は９、使える技能も同じだ。
【陽一】これまでの道中で何か探してたって事で【肉体】で振るぞ。８かよ。
【七三】こっちは６です……。
【ＧＭ】どっちも失敗か……さっきから出目が酷いな。
【陽一】数は振ってるんだがな……。

【七三】出ませんねぇ……。

【ＧＭ】さらにＥロイス効果で、陽一のＨＰが１０吸われる。

【陽一】さっき回復した分全部じゃねぇかーッ！

【ＧＭ】次のシーンはどうする？　陽一がＲＯＣしてくれ。

【陽一】そろそろプライズを集めないと不味い。協力者の知恵袋で『一緒に情報を探してくれる』をチョイスするぞ。

【ＧＭ】情報収集判定に＋２のボーナスがもらえる項目だな。頼り時か。陽一は負傷してるし、ちょうど良いな。

【陽一】そういう事で頼む。

【七三】私も出て良いですか？　ダイスの数は多い方が良いと思いますし、陽一さんをほっとけません。

【陽一】そうだな。出てくれるか。

【ＧＭ】では次のシーンに行こう。

●リサーチフェイズ６：ドクターカタヒラの助力

【陽一】侵蝕率は８上がった。

【七三】こっちも８です。

【ＧＭ】侵蝕率も大分厳しい展開になってきたな。

【陽一】情報収集でタイタス切るのも視野に入れないとな。

【七三】できればすんなり通りたいところです。

【ＧＭ】描写に入ろうか。少し休んで陽一はそれなりに持ち直したが、まだ本調子とは言い難い。それでもじっとしていられない陽一に、心配そうな片平と七三が付いて歩いている。

【片平】寝ていた方が良いんじゃないのか？

【七三】そうだよ。傷が開いたら大変だよ。

【陽一】そうも言ってられんのだ。あいつはまた来るぞ。せめて目的ぐらい探っておかないと、肝心なところで後手に回される。

【七三】その肝心なところで戦えなかったら意味ないよ！

【陽一】七三、俺の頑丈さは知ってるだろ？

【七三】知ってるけど、でも、でも……。と、ぐずります。

【陽一】七三の前にしゃがんで目の高さを合わせよう。七三、終わればしばらく休めるんだ。今だけ少し頑張らないと、休むに休めないんだよ。俺も、お前も、皆ロジャーに狙われてるんだ。

【七三】納得してないけど、頷きます。

【ＧＭ】やれやれと片平が首を振って、陽一に錠剤１つと水を差し出す。

【片平】痛み止めだ。ごまかしでしかないが、歩き回るのに不自由しなくはなるだろう。

【陽一】おぉ、サンキュー。これでまだ戦える。

【片平】いいか、それは『ごまかし』だ。無理をすればツケを払う事になる。忘れないでくれよ。

【陽一】わかってるよ。医者には従順にできてるんだ。

【片平】なら良いんだが……。

【ＧＭ】と言いつつ、無茶するだろうなぁって顔で片平は君を見ている。

【陽一】逃げるように背を向けるぞ。七三にも、手分けしよう。俺はこっち、そっちは任せたって言う。

【七三】そう言われると逆らえません。いよいよ泣きそうになりながら、言われた方へ歩いていきます。

【陽一】それがわかるだけに心苦しいんだが、どうしてやる事もできない俺。

【ＧＭ】というところで情報収集に移行しようか。いつも通り難易度は９。今回は＋２のボーナスがつくぞ。

【陽一】いつも通り【肉体】の素振りで、おお！　１回クリティカル！　ボーナス入れてキッカリ２０だ！

【七三】私は１０でした。

【ＧＭ】おめでとう。陽一がプライズチャートをＲＯＣしてくれ。

【陽一】振って、７番だな。

【ＧＭ】散ったな。だが事件の真相は確定した。トリガーイベントに移行しよう。

●トリガーイベント：凶機

【陽一】侵蝕率が２上がった。ここでこの数字はラッキーだ。

【七三】私も３です。

【ＧＭ】衝動判定も待ってるからなぁ。七三がクライマックスで１００％超えそうか。

【七三】ですねぇ。ちょっと怖いです。

【ＧＭ】惨事にならない事を祈りつつ、シーンの描写に入ろう。

【ＧＭ】陽一、君は廃墟の中を歩き回るうちに、これまでとは趣の異なる、新たな落書きを発見した。

【陽一】お？

【ＧＭ】それは廃墟の壁にペンキで書かれていて、辛うじて女性とわかる歪んだ絵の横に、赤いペンキで長文が書き連ねてある。

【陽一】なんだよ。これは。

【ＧＭ】文章は次の通り。

【文章】愛子、どうして僕を置き去りにするんだ？
僕はまだ走れるのに、僕の大切な石も持って行った！
愛子は僕の大切な人で、僕は愛子の大切な宝物だったんじゃないのか!?
僕が完璧じゃないから捨て（字が乱れて読めない）
許さないぞ愛子。僕は必ず取り戻す。必ずだ！
待っていろ愛子、ロジャーが今行くぞ！
愛子愛子愛子愛子愛子愛子（あとは全て愛子の二字で埋め尽くされている）

【陽一】イカレてる。

【七三】ジャームですからねぇ。

【陽一】そうか、砂漠の砂で車がやられたっていうのは嘘か。

【七三】そうでもないかもしれませんよ。モルフェウスの『砂』かも。
※モルフェウス発症者が生成する物質の事。これを利用してモルフェウスはアイテムを作り出すのではないかという説がある。また『砂』そのものを操る事に特化したモルフェウスも存在する。

【陽一】なるほどな。片平を連れてくるとややこしい事になりそうだし、愛子と七三だけ呼んで３人で話がしたい。新しい拠点の近くに呼び出したって事で良いか？

【ＧＭ】わかった。崩れかけの小さな廃墟の薄暗がりに、３人が集まる。愛子は君が何を見つけたか見当がついているのだろう。目の中に決意の色がある。

【七三】どうしたんですか陽一さん。何か見つかったんですか？

【陽一】ロジャーの落書きを見つけたんだ。宮崎さん、あんた、何か隠してるな？

【ＧＭ】愛子は嘆息する。

【愛子】ええ、ごめんなさい。私はあなた達にいくつか嘘をついた。

【七三】えっ？　どういうこと!?

【陽一】どれが本当で、何が嘘なんだ？

【愛子】この辺りに地下倉庫があるのは本当よ。でも車が砂にやられたと言ったのは半分嘘。ロジャーを知らないと言ったのは完全に嘘。

【七三】どうして、なんでそんな嘘ついたの？

【愛子】言い辛かったのよ。心の整理が、できてなかったから。

【陽一】何があったんだ？

【ＧＭ】愛子は目を伏せて、事の顛末を語ってくれる。

【愛子】ロジャーは私のバイクだったの。昔はあんな姿じゃなくて、普通の、趣味で買ったオフロードバイクだった。世界が滅んだ後も奇跡的に無事で、私は彼と一緒に人間がいそうなところを回ってた。

でも途中でおかしな事が起きたの。突然、ロジャーが喋りだしたのよ。

【陽一】レネゲイドビーイングとして覚醒したのか。

【七三】なるほどー。

【愛子】最初は驚いたわ。まさか自分のバイクがレネゲイドビーイングになるだなんて思いもしなかった。彼は面白い人で、私の不毛な旅に彩りをくれたわ。でも、妙な風に吹かれてから、彼はおかしくなった。

【２人】妙な風？

【愛子】紫色の風が吹いたの。そんな色の砂、どこにもないのに。風は彼の車体にまとわりついて、気が付いたらタンクのところに紫色の結晶が埋まっていたわ。

【陽一】賢者の石が風に乗って飛んできたってか？

【七三】賢者の石そのものがレネゲイドビーイングになったりもするみたいだし、もしかすると何か意志を持ってたのかも。

【陽一】恐ろしい賢者の石だな。それで、どうおかしくなったんだ？

【愛子】私にベッタリくっついて離れなくなったの。シートに縛り付けられそうになった事もあったわ。さすがに怖くなって、私は、彼から結晶を引き剥がした。彼がおかしくなった原因はそれだと思ったから。

【七三】すごい事するなぁ。

【陽一】無理矢理剥がすと危ないんじゃなかったか？

【ＧＭ】ルールブックには無理に埋め込むと危ないとは書いてあったが、無理に抜き取った場合どうなるかは書かれていなかった。

【陽一】マジで？　まぁ、今回のケースはどの道手遅れだったみたいだが。

【七三】ですねぇ。

【愛子】彼はすごい悲鳴を上げて、ピクリとも動かなくなった。エンジンもかからなくなって、壊れてしまったんだと思ったわ。だから私は、彼を砂漠に置いて、徒歩で旅を再開した。それで、あなた達に会ったのよ。

【陽一】それで、目的地に来てみたら、一足先にロジャーが来ていて支配者を名乗っていたというわけか。

【ＧＭ】ええ、と愛子が返事をしたその時だ。陽一の耳が、ロジャーのエンジン音をとらえた。さっきとは違って、エンジンは猛り狂っている。

【七三】この音、さっきの音に似てる。

【陽一】ああ、来たな。迎え撃つぞ七三。これが終わったら、ゆっくり休もう。

【七三】うん！

【陽一】あいつをぶっ壊すが、構わないな？

【ＧＭ】愛子は一瞬辛そうな顔を見せるけど、頷くよ。

【愛子】お願い、彼を止めて。

【陽一】任せろ。行くぞ！

【七三】はい！

●クライマックス：狂機

【陽一】壁をぶち抜いて登場！　って９も上がったぞ!?

【七三】あう、私もです……。

【陽一】２人揃って衝動判定で１００％越えはほぼ確定か。

【ＧＭ】ジャームになったりしないように頑張ってくれ。

【２人】人事だと思って！

【ＧＭ】壁をぶち抜いて音源に到着した君達が見たものは、巨大なバイクだった。ダンプカーのタイヤを連結したような車体の上に、鉄の巨人が融合していて、その胸には黄色や赤の結晶体がキラキラ輝いている。

【陽一】なんかＧＭが物騒な描写をしてるんだが。

【七三】まさか、賢者の石ですか？

【ＧＭ】そうだけど、Ｅロイスの力の源になっているものだと思ってくれ。賢者の石としては使わない。

【２人】ホッ。

【ＧＭ】鉄の巨人がエンジンをふかし、威嚇的な轟音を立てる。そして、どこからか、ロジャーの声がした。

【ロジャー】やっと準備が整ったんだ。さあ、そこをどいて、愛子を返してよ！

【陽一】そうはいかんな。お前はここで、ぶっ壊す。瓦礫を持ち上げるぞ！

【七三】お姉さんは渡さないよ！　銃を構えます！

【ロジャー】そうかい。邪魔をするんだね。邪魔をするなら、轢き潰すまでだ！

【ＧＭ】大音声でエンジンが咆える！　それに対抗するように君達のレネゲイドも異常活性を始める！　難易度９で衝動判定だ！

【陽一】衝動判定はダメなんだよなー。失敗して暴走。侵蝕率は５上がった。ギリギリ１回リザレクトできるな。

【七三】衝動判定には成功しましたが、侵蝕率が１７も上がっちゃいました……。

【ＧＭ】おい、大丈夫かよ。

【七三】大丈夫じゃありません！

【陽一】なるべく早く決着をつけないとな。

●第１ラウンド

【ＧＭ】まずは状況を説明しよう。戦場はこうなっている。

（陽一・七三）―２０ｍ―（ロジャー）

【ＧＭ】ロジャーの行動値は２６。

【陽一】早いな。俺なんて５だぞ。

【七三】１６です。《戦いの予感》でもないと勝てませんね。

※戦いの予感：行動値を爆発的に増やすエンジェルハィロゥのエフェクト。

【ＧＭ】セットアッププロセスにロジャーは《力場の形成》を使用。エンジンが凶暴な唸りを上げるぞ。

【陽一】そういや、《フルパワーアタック》使わないとな。これで俺もリザレクトできないや。瓦礫を振り回すために力を溜める。

【七三】私はセットアップのエフェクト持ってないです。

【ＧＭ】ロジャーから行動するぞ。マイナーアクションで《電磁誘導》と《イオノクラフト》を使う。信じられない事に巨大なバイクがフワリと宙に浮かび上がる。

【陽一】まさしくバケモノバイクだな。

【ＧＭ】陽一と七三にエンゲージして、《鋼の馬》にアレコレ組み合わせて２人に攻撃だ！　恐るべきバイクの巨体が２人を踏み潰す！　達成値は３９！

※鋼の馬：電気や磁力で自由自在に乗り物を操るエフェクト。

【陽一】俺はリアクションできない。

【七三】一応回避してみますが……やっぱりダメー！

【ＧＭ】Ｅロイスの効果も乗って、２人とも４５ダメージ。装甲は有効だよ。

【２人】耐えられるかー！

【陽一】片平のロイスをタイタスにして復活しよう。

【七三】同じく。

【ＧＭ】これで行動終了だ。七三のターン。

【七三】フルコンボでロジャーを攻撃します！　達成値は３４！

【ＧＭ】やるじゃないか。避けてみるけど、残念９止まり。

【七三】装甲無視の３４ダメージです。七三は小さいので、一見フルオートの反動に振り回されているように見えますが、弾は全て装甲の隙間を的確に射抜きます！

【ＧＭ】素晴らしい射撃技術！　しかし、ロジャーとてやられてばかりではない。《電磁反応装甲》を１回使う。装甲板が動いて、装甲の隙間から車体を食い荒らそうとする弾丸を半分以上止める！

【七三】こんな機能まであるなんて！

【陽一】俺に任せろ！　マイナーアクションで暴走解除、瓦礫を振り回してロジャーをフルパワーでぶん殴る！　達成値は、あんま伸びねえな、２５。

【ＧＭ】惜しい、１８で回避失敗。

【陽一】ダメージは……こっちまで低いと来たか。装甲有効の２８ダメージだ。

【ＧＭ】陽一が振り回した瓦礫は見事に装甲板をひん曲げ、テールランプを叩き割った。怒ったのか、エンジンがさらに回転数を上げる。

●第２ラウンド

（陽一・七三・ロジャー）

【ＧＭ】セットアップでロジャーは再び《力場の形成》を使用。

【陽一】俺は《フルパワーアタック》を使う。

【ＧＭ】再びロジャーからだな。エンジンをふかしたかと思うと、ロジャーはなんとその場でジャックナイフからコマのように回った！　高速回転する後輪が２人を襲う！　さっきと同じコンボで――む、今度はあまり高くないな。２８。

【陽一】回避してみるが……おお！　なんか回りに回って３２！　避けたぞ！

【ＧＭ】クリティカル値１０でよくそこまで伸びたな。

【七三】こっちは回避失敗です。

【ＧＭ】ダメージは装甲有効の４９。

【七三】ロジャーのロイスをタイタスにして復活します。そろそろバックトラックが怖くなって来ました……。

【陽一】俺はまだ余力があるから、コンボを省エネモードにして良いぞ。倒せなかったら、次のラウンドは倒れてて良い。

【七三】すみません、お願いします。そういうわけで《ピンポイントレーザー》と《コンバットシステム》を抜いて攻撃します。

【ＧＭ】おや、装甲無視はなくて良いのかい？

【七三】バイクなら装甲値は高くないと思うので……あ、クリティカル、クリティカル、クリティカル――

この時点でダイスは１個、しかし、０、７、９、８、ダイスは回り続ける……。

【陽一】行けぇ！　七三ぃッ！
【七三】回りに回って達成値９５です！
※ダブルクロスでは、しばしばこういう奇跡が起きる。
【ＧＭ】一応避けてみるけれど、１９止まり。ダメージロール来い。
【七三】えへへ、ダメージダイスが１０個も振れます。全部で、７８ダメージ！
【ＧＭ】残りの《電磁反応装甲》を使っても……足りない！　破壊された！
【２人】やったぁー！
【七三】演出は、そうだなぁ、車体に飛びついて、陽一さんが破壊したテールランプに零距離から射撃したという事で！
【ＧＭ】陽一が装甲を剥ぎ取り、そこへ七三が必殺の攻撃を叩き込む、おお、なんという美しい連係プレー！　エンジンを破壊されたのであろうか、ロジャーの車体は爆発し、クズ鉄の塊となった。
【ロジャー】愛子、僕を、どうして……。
【ＧＭ】爆炎の中から、そんな声が聞こえたような気がした。
【陽一】……帰るぞ、七三。
【七三】陽一さんがちょっと沈んでるようなので、静かに「はい」って答えます。
【ＧＭ】２人が去った後も、しばらく炎は消えずに揺らめいていた。

●バックトラック：運命の帰り道

【ＧＭ】それではバックトラックと行こう。その前に、ロジャーはＥロイスを２つ持っていた。バックトラック前に侵蝕率を２Ｄ１０下げられるよ。

【陽一】俺は下がりすぎるかもなぁ。そっちは放棄する。

【七三】私はもちろん振ります！　やった！　１６下がりました！

【ＧＭ】では、残存ロイスの数と、素振りか倍振りかを宣言して振りたまえ。

【陽一】残存ロイス４、素振りするぞ。おお、デカい！　３１減って、８０だ。

【七三】残存ロイス３、倍振りですね。２５下がって、９２です。

【ＧＭ】一時はどうなる事かと思ったが、２人とも帰ってきたな。良かった良かった。では、これからエンディングなんだが、このテンプレでは、全員で空を眺めるエンディングが推奨されている。

【２人】そうなの!?

【ＧＭ】だってこの世界、分割行動しにくいんだもん。

【陽一】まぁ、確かに、すぐ集まれる範囲で動いてたよな。

【七三】そうですねぇ。

【陽一】新しい拠点で飴でも食いながら夕焼け見るか。俺達負傷者だしな。

【七三】そう言えばそうです。バイクに２度も轢かれました。

【ＧＭ】ではそういう方向で演出しようか。

●エンディング：夕焼け小焼け

【ＧＭ】新しく見つけた拠点は、さっきと同じような形の、３階建ての廃ビルだった。サッシの外れた窓には壊れたブラインドがぶら下がっていて、赤い西日が差し込んできている。

【陽一】飴を口の中でカラコロ転がしながら、最上階で空を見てるぞ。

【七三】その隣で一緒に空を見てます。

【陽一】明日になったら、宝探しするか。独り言みたいにボソッと言う。

【七三】うん。夕日が沈んで行くのを見ながら返事します。

【陽一】新しい服とか、見つかると良いな。

【七三】うん。

【ＧＭ】陽一のは血塗れだもんなぁ。

【七三】そうですねぇ。七三も、あちこち穴が開いたシャツを少し気にします。長く着ていたので愛着があるのです。

【陽一】モルフェウスがいたらなぁ。愛子が裁縫技能持ってたりしない？

【ＧＭ】ではそこらでヒロインに登場してもらおうか。彼女は担架を作る時に出たザックの切れ端を持ってくるよ。

【愛子】あ、ここにいたのね。

【陽一】どうかしたか？

【愛子】まず、お礼を言わせてちょうだい。助けてくれて、彼を止めてくれてありがとう。

【陽一】気にするな。昔からやってきた事だ。

【七三】お姉さんも、アメ、ありがとうね。コロコロと七三も舐めています。

【ＧＭ】緊張を解いて、彼女は柔らかく微笑むよ。

【愛子】服が大分ボロボロになってるでしょう？　新しく作るのは無理だけど、つぎ当てぐらいはできるわ。直させてもらえないかしら。

【陽一】じゃあ、七三のシャツを頼む。俺のは……直しようがないな。

【愛子】新しいのが見つかると良いわね。

【陽一】見つかっても、またすぐボロになると思うけどな。じゃあ、七三の方は頼んだ。

【愛子】頼まれました。七三ちゃん、こっちよ。

【七三】はーい。パタパタついていきます。これで退場という事で。

【陽一】１人になった俺は、タグを沈みかけの夕日にかざす。よう相棒。今日は娘に助けられたよ。どうやら、お前と会うのは当面先になりそうだぜ。って短く話しかける。

【ＧＭ】物言わぬドッグタグが夕日にきらめき、そして日が沈んだ。夜が荒れ果てた世界を優しく包んでいく。

ダブルクロス The 3rd Edition　デッドワールド　命を賭して　完